

## 第3回内山下構造検討委員会 議事要旨

### 【日時及び場所】

日時：令和2年3月4日（水）10:00～12:00  
場所：岡山河川事務所 2F 大会議室

### 【出席委員・オブザーバー】（敬称略，50音順）

委員：稲田 孝司（岡山大学 名誉教授）  
竹下 祐二（岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授）  
田中 哲雄（日本城郭研究センター 名誉館長）  
前野 詩朗（岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授）  
オブザーバー：扇崎 由（岡山市教育委員会 専門官（文化財課長代理））  
柴田 英樹（岡山市教育庁 統括副参事（文化財課長代理））

### 【議事概要】

#### 1. 委員会規約の承認

- ・ 委員会規約の規約改正について承認を得た。（令和2年3月4日付で施行）

#### 2. 委員長選出

- ・ 委員の互選により，前野委員が委員長に選任された。

#### 3. 議事

- ・ 事務局から，（1）前回までの委員会における協議経緯とその後の対応状況，（2）堤防構造案，（3）文化財調査の内容について説明した。
- ・ 以下の整備方針を確認した。
  - ① 堤防法線は，史跡の保護，背後地施設や用地への影響および治水への影響を総合的に勘案し，区間全体で，既設石積み前面に堤防を築造する法線とする。
  - ② 護岸は，河岸の安全性を確保できる大型ブロックの前面に，自然石を取り付ける構造とする。
  - ③ 埋蔵文化財の調査は，岡山県が実施する。三次元測量は，UAV 写真測量を国土交通省が実施する。なお，三次元測量の詳細内容は，岡山県文化財課と協議し，適正に調査する。

### 【主な意見】

- ・ 対象箇所が大きく湾曲する箇所のため，平面二次元解析により水位への影響を詳細に確認する必要がある。

- ・ 昨今の災害を踏まえると、掘削は堤防整備にあわせて実施することが望ましい。また、スピード感をもって整備を進めてほしい。
- ・ 新しく整備する護岸は、周景との調和を図る必要があるが、誤解を招かないよう既存の石積に似せない方がよい。
- ・ 現況石積みの裏込め部に空洞化が進行していた場合、前面に盛土することにより護岸が変位する可能性があり、施工時に確認してほしい。
- ・ 文化財調査実施時には、現地において調査状況を確認したい。
- ・ 文化財調査にあたり、弓櫓上流側の坂路付近で石垣が埋蔵されている可能性がある。また、内堀箇所、旭川と堀を結ぶ函渠が埋蔵されている可能性があり、確認が必要である。
- ・ 公園内の樹木の取り扱いは、岡山市が定めている管理方針に準拠する必要がある。

以上